

## 一般質問



公民連携による庁舎整備の  
実現可能性調査に係る  
中間報告と今後の展開

**問** 今回の庁舎整備の実現可能性調査から分かったことは。

**答** 本館の利活用は、床面積が大きく全体の活用が難しい

ことや、多額の改修費用が想定されるとの懸念が示された。

事業スキームは、民間の独立採算は難しく、市が必要な改修を行い、運営面で一定の支援も必要等の意見があった。

庁舎整備事業に対しては、本館の利活用と別事業がよいという意見や、一体的な事業がよいという意見等があった。

**問** 今年度中に庁舎整備の方向性を示される予定だが、民間活力導入の可能性調査の実施時期が未定であると考えれば猶予はない。市長の見解は。

**答** 調査では、条件次第で事業参画の可能性があると意見もあり、次のステップであるPFI等による調査でより深く実現可能性を探りたい。

事業者による検討期間や、その意見を踏まえ、市も検討期間が必要だが、コロナ禍の影響や災害からの復旧・復興事業の実施もあり、今後のスケジュールは改めて示したい。

**再発言** 下手に急いで他の選択肢を見落とし、判断を誤るくらいなら、スケジュールの後ろ倒しもやむなしと思う。



排水対策基本計画を2年  
かけて策定予定だが、今年、  
来年の水害への備えを

**問** 全市域に排水対策の課題はあるが、一例として、歴木中周辺の浸水対策への考えは。

**答** 短期的には、水路、側溝

のしゅんせつ、三田堤・小野堤の水位管理に加え、大雨時に堂面川沿いの水路に臨時の仮設ポンプを設置し、浸水被害の軽減に努める。

**再発言** 抜本的、長期的に進めることのほかに、少しでも浸水高を下げる工夫等を考え、一日でも早く実行されたい。

県全体からの視点と  
これまでの経験・人脈を活用し、  
教育施策の大きな前進を

**問** 谷本新教育長の大牟田の教育についての認識と、御自身の役割についての考えは。

**答** 本市では、ESDなどの特色ある教育を展開しているが、加えて基礎学力の確実な定着が必要であり、日々の授業改善や学校の組織マネジメントの向上などに取り組む。

**問** 小中一貫校ができたが、これまでの小中一貫教育の推進から何が進むのか。

**答** 学習内容と学習方法をつなぐこと、子供たちの心をつなぐことの二つの点がある。その一番のキーワードは教職員の意識改革で、学力向上やギャップの解消が期待できる。



昨年の豪雨を踏まえた  
災害対策

**問** テレビの配置を含めた今後の避難所における情報提供の方法は。

**答** 自主避難所では既設のテ

レビを活用しているが、引き続き、避難者への速やかな情報提供に努めながら、必要に応じ、視聴環境の整備も検討していきたい。

また、今年より各避難所にタブレット端末を配備したことで情報の一斉伝達が可能となったため、これまで以上に避難者への情報提供が円滑になると考えている。

**問** 昨年の豪雨災害時において、ボランティア団体との情報共有が不十分だったことから、市と社会福祉協議会との

協定の見直しが必要では。

**答** 御指摘の課題を含め、関係先と協議を行っていく。

**問** 6月1日より防災専用ホームページの運用を開始されているが、内容と周知方法は。

**答** リアルタイムで浸水などの状況を画像で確認できるよう構築した。

平時には広報おおむたやホームページで、災害時には愛情ねっと、LINE、FMたんと等で周知を図っていく。

**再発言** 災害時の避難等に役立つよう十分周知してほしい。